

## 【発明の名称】

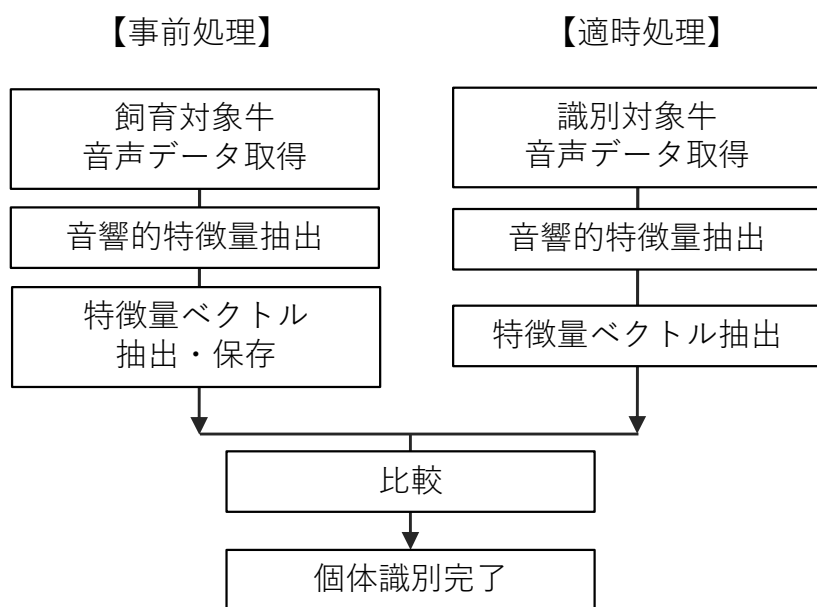
## 飼育対象牛の個体識別方法および個体識別装置ならびに管理システム

## 【従来技術の課題】

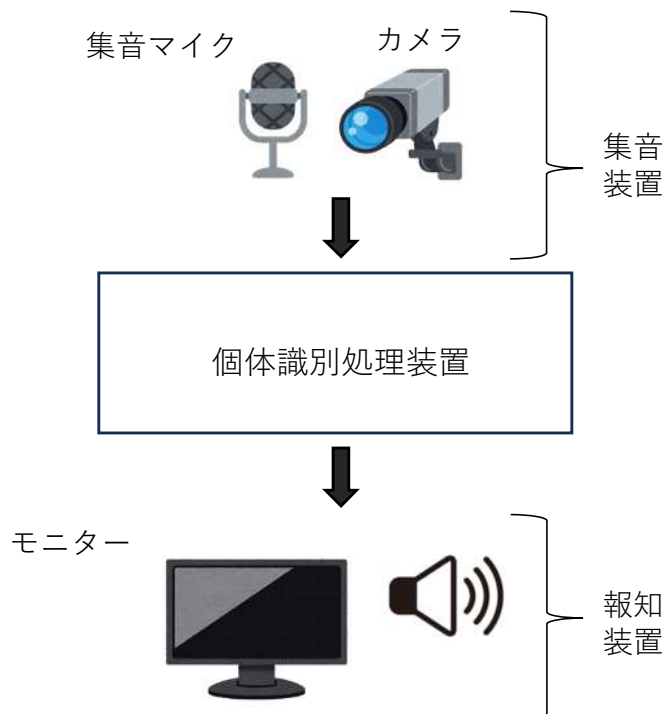
- ・近年、経営の大規模化により、多数の牛を省力的に見守る技術が求められている。
- ・従来のIoTを用いたモニタリング技術では、牛を捕まえて機器を取り付ける必要があり、飼養者と牛の両方にとって負担となっている。

## 【本技術の概要・特徴】

- ・鳴き声を使うため、非接触で個体識別および状態把握を行う。
- ・牛の鳴き声と牛舎内の環境音を自動的にほぼ100%区別可能。
- ・従来の個体識別精度は76.7%であったが、今回の技術では92.4%を達成。
- ・識別した個体がどのような状態であるのかを判定可能。
- ・飼養者および牛双方にとって負担軽減となり、また、高精度な個体識別が可能のため、飼育対象牛の管理が効率化できる。



個体識別方法の概略図



管理システムの概略図

特許請求  
の範囲

- ・個体識別に係る各工程手段
- ・識別装置は識別方法を処理し、管理システムは識別装置に集音装置および報知装置を備える。